

交野市学校教育ビジョンの前期計画期間の取組状況について

<<施策の柱Ⅰ. 情（こころ）を育む学校>>

(1) 夢と志を育む教育の充実

① 道徳教育

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の実施	教・学	継続	教職員の意識改革や指導力向上のための研修の実施	→				
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>道徳教育に関する指導力向上のための研修を定期的に行い、「特別の教科 道徳」の概念や根本的な考え方、授業づくり等について周知、共有することができた。</p> <p>課題</p> <p>児童生徒の評価について、授業評価の方法について、そして学校全体で取組む道徳教育の進め方に関しては、引き続き各校情報を共有しながら工夫改善していく。</p> <p>評価 A</p>								

道徳の時間の資料の研究・活用	学	拡充	各教科等において、道徳的実践力を育成するために、道徳の資料を活用	→		→		
指導課、教育センター								
<p>結果・成果</p> <p>道徳教育推進教師が研修を通して情報交流を行いながら、指導体制、教材、評価方法の共有等の校内体制を整えた上で、全面実施を迎えることができた。</p> <p>課題</p> <p>児童生徒が、考え議論することのできる道徳の授業の充実のため、教材や資料の扱いや発問、活動の形態等、小中の連携を図りながら、引き続き研究を進める必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

「豊かな人間性をはぐくむ取組み推進事業」の実施（府事業）	教・学	継続	事業を通し、「道徳の時間」の授業の充実を図るとともに、公開講座等において、地域に向けた道徳教育の推進	→		→		
指導課、教育センター								
<p>結果・成果</p> <p>各校または各中学校区にて、教員対象の道徳研修を実施した。また保護者や地域の方を対象とした公開講座も行った。</p> <p>課題</p> <p>地域・保護者への道徳教育の周知、また地域と連携した道徳教育については、通信や授業公開等を通じた発信など、さらに進めていく必要がある。</p> <p>評価 B</p>								
地域と連携した道徳教育の推進（あいさつ運動・清掃活動等）								

② 人権尊重の教育

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の実施	教・学	継続	意識の高揚や指導力の向上等のための研修を実施					
指導課、教育センター								
<p>結果・成果 毎年度、さまざまな人権課題について研修を実施することができた。講師を招聘し人権意識や指導力の向上をめざした研修を実施することができた。</p> <p>課題 これまでの研修や積み上げてきた実践が全学校、全教職員に広がるような取組みを今後とも推進していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
人権教育ブックレットの作成・配付	教	継続	人権教育に関する資料や実践事例を掲載したブックレットの作成と配付					
指導課								
<p>結果・成果 毎年度、人権教育に関する資料や実践事例を掲載したブックレットを作成し、配付することができた。内容も中学校区毎に系統性を意識したものを作成し掲載した。</p> <p>課題 各中学校区が9カ年の系統表を作成し、さらに授業等で使いやすいブックレットの作成をめざす必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
交野市男女平等教育推進委員会の開催	教	継続	男女平等教育に関する調査・研究及び実践の交流					
指導課								
<p>結果・成果 交野市男女平等教育推進委員会を年間5回開催し、研修や研究、実践の交流を行うことができた。</p> <p>課題 性自認や性的マイノリティーについての理解を深めるとともに、各校の実践が学校内だけではなく、市内全域にさらに広がり深まるように推進委員会のさらなる充実が必要である。</p> <p>評価 A</p>								
小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進								

③ キャリア教育

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の実施	教・学	拡充	意識の高揚や指導力の向上等のための研修を実施					
指導課、教育センター								
<p>結果・成果 教育活動全般において、キャリア教育の視点を持った指導力の向上に係る研修を実施することができた。</p> <p>課題 小中一貫教育を推進する中で、キャリア教育の視点を持ったより一層の小中学校9年間をつなぐカリキュラムマネジメント等の実践力を高める研修が求められる。</p> <p>評価 A</p>								
全体指導計画の作成（全校区）	学	拡充	各学校での取組みの充実のため、中学校区において全体指導計画を作成					
指導課								
<p>結果・成果 全中学校区において、キャリア教育の全体指導計画を作成し、めざす子ども像を共有することができた。</p> <p>課題 キャリア教育の全体指導計画をさらに具体的に取組みに反映させる必要がある。そのために小中学校9年間をつなぐキャリア教育をさらに充実させる必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
職場体験学習の実施	教・学	継続	地域・関係部署との連携により、全中学校区で職場体験学習の実施					
指導課								
<p>結果・成果 全中学校において毎年度、職場体験学習を実施することができた。職場体験を通して生徒が自信や自己有用感を持ち、自らの生き方について考えることができた。</p> <p>課題 職場体験学習をさらに充実したものにするために、新規事業所の開拓などを行い、社会に対応した職場体験学習にしていくことが求められる。</p> <p>評価 A</p>								
小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進								

(2) 生徒指導の充実

① 生徒指導

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
相談体制の充実と校内体制の支援	教	新規	交野市教育センターに臨床心理士を配置し、校内ケース会議や校内いじめ対策委員会等への支援					
指導課、教育センター								
<p>結果・成果</p> <p>児童生徒、教員、保護者からの教育相談をはじめ、校内ケース会議への参加を積極的に行うことができた。また、学校と連携し、事前に報告を受けて、要望に基づく支援を行うことができた。</p> <p>課題</p> <p>教育相談やケース会議の件数が年々増加する中、臨床心理士が1名体制ではすべての要望に対応できない場合がある。また、学校との連携を進め、より効果的な支援を行っていく必要がある。</p> <p>評価 S</p>								

児童と生徒との交流の推進	教・学	拡充	児童会・生徒会活動の充実を支援するとともに、児童と生徒との交流をすすめる、有用感の醸成と小・中学校の段差解消					
指導課、教育センター								
<p>結果・成果</p> <p>児童会と生徒会との連携が進み、合同挨拶運動などの取組みを持つことができた。4中学校の生徒会交流が進み、合同でSNS啓発動画を作成するなど、交野市生徒会サミットを毎年開催することができた。</p> <p>課題</p> <p>児童会と生徒会の連携をさらに推進し、憧れの先輩像につながる児童会と生徒会の取組みを進めていくことが求められる。</p> <p>評価 A</p>								

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
いじめの未然防止、早期発見・早期対応	教・学	継続	教職員研修の充実等で、教職員の共通理解を促進するとともに、アンケートの年3回実施と保護者や地域との連携の推進					

指導課、教育センター

結果・成果

毎年度開催のいじめ対策研修で傾聴スキル等の内容について学習し、教職員の共通理解を図ることができた。また、年3回実施の「こころとからだのアンケート」により、きめ細かな対応を行うことができた。

課題

いじめ防止対策推進法の「いじめの定義」に基づいた積極的認知については、学校においてより一層の共通理解が必要である。また、交野市いじめ問題対策連絡協議会審議会を定期開催し、関係機関との連携を強化する。

評価 A

不登校0をめざした取組みの推進	教・学	継続	教職員研修の充実等で、教職員の共通理解を促進するとともに、中学校区での連携の推進					
-----------------	-----	----	--	--	--	--	--	--

指導課、教育センター

結果・成果

スクリーニングシートの活用やアセスメントの方法について研修を行い、教職員間における共通理解を図ることができた。

課題

不登校児童生徒の積極的認知と個に応じたきめ細かな対応を行うために、継続して未然防止、早期発見、早期対応について取組みを進める必要がある。

評価 B

児童虐待防止の推進	教・学	拡充	教職員研修の充実等で、教職員の共通理解を促進するとともに、関係機関との連携の強化					
-----------	-----	----	--	--	--	--	--	--

指導課、教育センター

結果・成果

子育て支援課と連携し、チーフスクールカウンセラー等を講師に招き、虐待防止の教職員研修を実施した。

課題

教職員のより一層の共通理解を図るために、伝達講習等を行い、研修内容について情報共有していく必要がある。

評価 A

小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進

② 幼稚園、保育所と小・中学校の連携

項目	主体	内容	H26	H27	H28	H29	H30
交野市幼・保・小連絡協議会の開催	教	継続 研修会の開催等により、保育活動と学校教育についての相互の連携と交流の推進					
指導課							
<p>結果・成果 「幼・保・小連絡協議会」「こ・幼・小連絡協議会」を毎年開催し、就学前教育と学校教育についての相互の連携と交流の推進について検討を行い、実践につなげることができた。</p> <p>課題 今後も多角的な視点から協議会のテーマを定め、スタートカリキュラムの作成等さらなる連携と具体的な実践を進めるために、情報の交流を図る必要がある。また、中学校も含めた連携をすすめる必要もある。</p> <p>評価 A</p>							

幼稚園、保育所と小・中学校との交流の推進	学	継続 行事交流、入学体験など幼児と児童の交流、中学校の職場体験等による幼児と生徒の交流の推進					
指導課							
<p>結果・成果 各小学校、就学説明会における児童と幼児との交流や、幼児の授業体験等を通じたこ・幼・小交流を行った。また職場体験等でも幼児と生徒との交流を行った。</p> <p>課題 連携をさらに深めるために、行事交流だけでなく、保育活動や学校教育の中の様々な活動や学び、体験におけるこ・幼・小・中の交流を図っていく必要がある。</p> <p>評価 B</p>							

小・中学校における指導と支援の充実	教・学	継続 子どもの生活及び発達や学びの連続性を踏まえた合同研修や参観、子どもの個々のニーズに応じた支援の実施					
指導課							
<p>結果・成果 各中学校区において、小中一貫教育の取組みが進み、合同研修会だけでなく、毎月の会議や相互授業参観、定期的な情報交換、そして児童生徒どうしの交流を通し、発達段階に即した学びの連続性や必要な支援について共有することができた。また、個々のニーズに応じるため就学支援シートの活用やフォローアップ事業による情報共有を図ることができた。</p> <p>課題 小中の教員どうしがさらに連携をし、児童生徒の発達段階と学びの特性の理解を図る。その上で、具体的な支援の時期や方法について協議し、実践していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>							
関係部署と連携のとれた幼・保・小の交流の推進							

(3) 読書活動の推進

① 読書習慣

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
全校一斉読書の実施	学	継続	読書の機会の拡充のため、「朝の読書」などの一斉読書への取組み					
指導課								
<p>結果・成果 全小中学校で全校一斉読書や朝読書を実施することができた。</p> <p>課題 全国学力・学習状況調査において「1日に読書を全くしない」と回答する児童・生徒の割合が、小・中学校ともに全国を上回っており、今後も継続して本に親しむ態度の育成を図る必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
市立図書館との連携	教・学	継続	団体貸し出しやブックトークの実施など、読書活動の推進のための連携					
図書館、指導課								
<p>結果・成果 おはなし会や巡回図書、団体貸出を行うことで、団体貸出冊数及び市立図書館貸出冊数が増加し、読書活動を推進する支援をすることができた。</p> <p>課題 貸出図書の希望が重なり、適当な時期に適当な書籍が子どもたちに行き届かないということがないように、年間指導計画の調整、蔵書の拡大などの工夫を図る必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
学校図書館を活用した授業の推進	学	拡充	教職員研修を実施し、調べ学習など学校図書館を活用した授業の推進					
指導課								
<p>結果・成果 調べ学習等において学校図書館を活用するため、年間を通じて学校図書館活用研修を実施することができた。</p> <p>課題 学校図書館の「学習センター」としての機能を充実させるため、学校司書と司書教諭の連携をさらに図る必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
地域と連携した読書活動の推進								

② 学校図書館の充実

項目	主体	内容	H26	H27	H28	H29	H30	
図書館資料の整備	教	拡充 学校図書館図書標準28)の達成に向けた図書資料の充実と新聞の配置	➔					
学校管理課、指導課								
<p>結果・成果 蔵書や図書資料の充実、新聞の配置を行った。</p> <p>課題 市内学校の図書の充足率が100%に届いていない学校が多いため、新規購入を継続することで、新しい本を増やし、児童・生徒がより活用しやすい図書室にする。</p> <p>評価 B</p>								

学校図書館支援事業 1)データベース化(4校済) 2)学校司書の配置	教・学	拡充 1) 蔵書の整理とともに、蔵書管理のためのデータベース化の実施 2) 学校図書館の運営に係る専門的・技術的業務を行う学校司書の配置	➔		➔		
指導課、図書館							
<p>結果・成果 学校司書を配置し、学校図書館のレイアウト、書架の並べ替え等の環境整備を行うとともに、蔵書管理のためのデータベース化を図ることができた。</p> <p>課題 学校司書の人材不足による、専門性の担保の難しさがある。</p> <p>評価 A</p>							

地域ボランティア対象研修の実施	教	新規 市立図書館と連携し、地域ボランティアの研修の実施	➔				
図書館、指導課							
<p>結果・成果 市立図書館と指導課が連携し、地域ボランティアと学校司書、教職員対象の研修を実施し、相互理解を図ることができた。</p> <p>課題 地域や学校で読み聞かせできるボランティア人材の育成・支援を行うために、引き続き「学校図書館ボランティア連続講座」等の研修会を開催するなど、ボランティアの拡充に努める必要がある。</p> <p>評価 A</p>							
地域と連携した読書環境の整備							

<<施策の柱Ⅱ. 「確かな学び」が実感できる学校>>

(1) 「新しい学び」の創造

① 教育課程

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
各校でのP D C Aサイ クルの充実	教・学	拡 充	研修を充実させるとともに、A（改善）をさらに機能させることによる取組みの見直し					

指導課

結果・成果

各担当者会などを通じて、より教職員の資質と専門性を高めるための研修を毎年改善してきた。講習形式の研修だけでなく、対話的で実践的な研修も実施することができた。

課題

研修をより精選することにより、キャリアステージに応じた経験の浅い教員の育成やミドルリーダーを育成する研修をさらに充実させる必要がある。

評価 A

教職員研修 の充実	教	拡 充	交野市教育センターとの連携による、より実践的で専門性の高い研修の実施					
--------------	---	--------	------------------------------------	--	--	--	--	--

指導課、教育センター

結果・成果

市教育センター主催の研修を毎年度約50回程度実施することができた。専門、キャリアステージ、課題・目的別研修などのカテゴリーを設定し、実践的な研修を行うことができた。

課題

「主体的で対話的で深い学び」をはじめ、新学習指導要領に対応した授業改善につながる研修を実施していく必要がある。また、回数や実施方法も精査し、より必要性のある研修内容にしていく必要がある。

評価 A

I C T 機器 の整備	教	継 続	I C T機器の入れ替え、 周辺機器の整備					
-----------------	---	--------	--------------------------	--	--	--	--	--

指導課

結果・成果

市内小中学校のICT関連機器の更新及びネットワークも含めた環境の充実をすすめることができた。

課題

教育の情報化に対応するため、情報化推進計画を策定し、学校ICT環境の整備と運用をすすめていく。

評価 B

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
プログラミング教育の推進	教	新規	「新たな学び」につながるプログラミング教育の推進					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>令和2年度からの小学校での必修化に向けて、プログラミング教育推進のため、レゴ型ロボットを使用したプログラミング学習を全小学校及び中学校で実施した。また、各担当者会などを通じて、よりスムーズに令和2年度を迎えられるように、先進校の具体的事例の紹介や実際に授業体験の機会を設定し、より実践的な研修も実施することができた。</p> <p>課題</p> <p>学校ICT環境の整備を進めるとともに、ICT機器を積極的に使用する教職員の育成のための研修を実施する必要がある。</p> <p>評価 S</p>								

英語指導助手（ALT）の配置	教	継続	外国語活動担当者連絡協議会等を通し、ALTのより効果的な配置についての検討					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>外国語教育のさらなる充実のため、ALTを増員することができた、よりきめ細やかな連携を図るための年6回以上のALT定例会を開催し、効果的な指導方法についてALTと共有することができた。</p> <p>課題</p> <p>外国語教育のさらなる推進を図るため、ALTの資質向上を図るために、より丁寧に方針や指導方法などについて定例会を通じて共有していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

外国語教育の推進	教	新規						
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>外国語担当者会（GCP）をより専門的で、実践的な研修の場とすることができた。先進校の視察や外国語教育の有識者から学んだことを各学校へ伝達することができた。</p> <p>課題</p> <p>中学校英語科担当教員及び小学校外国語教育担当者については、授業改善について共通理解を図ることができている。それを、小学校全教員に拡大していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
小中一貫教育に向けた指導方法の研究	教	新規	義務教育9年間を見通した継続的かつ一貫性のある指導の研究					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>モデル中学校区を指定し、実践研究を行い他の中学校区への発信を行うことができた。また、年間を通じて連絡協議会、カリキュラム検討委員会を開催し、各教科・領域での9年間一貫したカリキュラムの作成、実施に向けての支援を行った。</p> <p>課題</p> <p>令和2年度からの「交野市の小中一貫教育」全面実施に向けて、各中学校区における一貫性のある指導の充実にに向けた取組みを行う必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
小・中の連携、校区小・小の連携による指導方法の研究								

② 学習指導

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
少人数学級の整備と充実	教	新規	小学校において、市独自の35人以下の学級編成を実施					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>平成29年度以降には、児童に対してきめ細かな指導ができるよう小学校全学年における35人以下学級編成を実施した。授業アンケート等からも35人以下学級編成に係る質問では肯定的な回答が多い。任期付き職員の配置校へは、授業や学級経営に関して定期的な訪問を行い、授業づくりに関する支援を行った。</p> <p>課題</p> <p>少人数学級編成に向けての人材確保と経験の浅い講師の人材育成に努める必要がある。</p> <p>評価 S</p>								

学力向上策の確立	教・学	拡充	学力や学習状況を把握・分析し、課題解決に向けた学力向上策の確立と学習支援員等の人的支援の充実					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果を分析し、市全体の傾向や各校の課題を把握し、それぞれの課題に応じた指導方法の工夫改善の支援を行った。各小学校が児童の学力の現状や課題を把握し、授業改善の取組みにつなげるために、「小学校定期テスト」を実施した。「主体的・対話的で深い学び」を実現し求められる資質・能力を育むために、全小・中学校において「かたのスタンダード」に基づいた授業づくりを実施し、指導方法の工夫・改善を図ることができた。また、各校の課題に応じた支援を行えるように学習支援員を配置することができた。</p> <p>課題</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果や大阪府チャレンジテストの分析結果を活かし、各小・中学校の個別の課題にあった取組みをより推進する必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
学習評価システムの構築	学	拡充	指導と評価の一体化を図り、より教育効果を高める評価システムの構築					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>指導と評価の一体化に向け、よりよい学習評価システムの構築について研修や学校訪問等を通じて指導助言を行うことができた。また、中学校においては、絶対評価における評価規準のあり方について助言することができた。「かたのスタンダード」に基づく授業スタイルの確立のため、授業力向上につながる指導助言を行うことができた。</p> <p>課題</p> <p>次期学習指導要領に基づく学習評価のあり方について検討する必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
大学等との連携の強化	教	拡充	小・中学校と大学等との情報交換の場の設置、及び大学等との連携による教師塾の開催					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>国語、理科、集団づくり、外国語において専門研修を開催し教師力向上につながる実践的な研修を行うことができた。またスマホ教室など社会の状況を踏まえた子どもたちに必要な授業を実施することができた。</p> <p>課題</p> <p>大学等との連携を継続して行うこと。また社会の状況を把握し、子どもたちに必要な資質・能力が身につけられる研修を精査し教職員へ提供することが必要である。</p> <p>評価 A</p>								
児童・生徒対象セミナーの開催	教	拡充	土曜日や夏季休業中における教科ごとのセミナー開催					
青少年育成課								
<p>結果・成果</p> <p>学校休業日に、児童・生徒を対象とした「交野市子どもプラン」及び「中学生理科セミナー」を実施した。実施にあたっては、摂南大学や大阪市立大学理学部附属植物園の協力のもと、日ごろの授業では経験できないような自然体験活動や科学実験を行った。</p> <p>課題</p> <p>今後も児童・生徒のニーズを把握し、参加者数の増加や事業内容の充実に向けて取り組む。</p> <p>評価 A</p>								
小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進								

(2) 障がいのある子どもの自立への支援

① 「ともに学び、ともに育つ」教育システムの構築

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の実施	教	拡充	通常の学級担当者等に対する、インクルーシブ教育の充実に向けた研修の実施					
指導課、教育センター								
<p>結果・成果 インクルーシブ教育、合理的配慮について理解を深めるための研修を実施した。</p> <p>課題 年々、経験の浅い教員が増加していく中で、通常の学級の担任等に対してインクルーシブ教育システムの構築に関する理解を継続的に図っていく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

インクルーシブ教育に係る知識・理解の促進	教・学	拡充	「障がい理解教育」を教育活動や研修を通して深めることによるインクルーシブ教育の充実			個別の教育支援計画の活用		
指導課								
<p>結果・成果 各小学校2年生を対象に聴写テストを実施し、支援を要する児童の早期発見に努めた。また、合理的配慮についての事例を収集し、インクルーシブ教育システム構築の一助とすることができた。</p> <p>課題 各学校の通常の学級において、「ともに学び、ともに育つ」教育を実施するために、引き続き具体的な支援の手立て等を研究していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

授業の工夫・改善	学	拡充	通常の学級の授業における「すべての子どもにとってわかりやすい授業づくり」（授業のユニバーサルデザイン）の推進					
指導課								
<p>結果・成果 通常の学級における合理的配慮に基づいた授業づくりを推進するために、授業充実支援等の学校訪問による指導・助言や管理職への発信を行った。</p> <p>課題 障がいが多様化する中で、今後も継続して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの推進を図る必要がある。</p> <p>評価 B</p>								
地域と連携し「ともに学び、ともに育つ」教育の推進								

② 支援教育

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の実施	教・学	拡充	支援学級担当教員の専門性の向上及び支援教育への理解促進のための研修を実施					
指導課								
<p>結果・成果 年間を通じて、支援教育担当者（支援教育コーディネーター、支援学級担任等）を対象とした研修を実施し、支援を要する児童・生徒に対する具体的な支援の実際についての理解を深めることができた。</p> <p>課題 支援教育担当者の専門性や継続性を担保することが難しく、各学校における支援教育の充実につながりにくい現状がある。</p> <p>評価 A</p>								

リーディングチームによる支援教育の推進	教・学	拡充	支援学級とリーディングチームの連携・協働による巡回相談の促進及び研修企画等					校内体制の充実（支援教育Coの活用）
指導課								
<p>結果・成果 年間を通じて、リーディングチーム連絡会を実施し、市内小・中学校における支援教育に関する課題解決に向けての方策を講じることができた。支援教育Co研修会の開催、巡回参観・相談などを行った。</p> <p>課題 世代交代が進む中で、リーディングチーム自体の専門性の向上を図る必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

<<施策の柱Ⅲ. 組織力の向上と開かれた学校>>

(1) 教職員の資質・能力向上

① 授業力の向上

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
授業づくりの推進		新規	「主体的・対話的で深い学び」の実現やその指導方法の推進					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>各教科の課題に応じた授業づくり研修を実施した。授業充実支援として、指導主事及び市教育センター職員が各校を訪問し、授業を参観し、指導・助言を行った。また、市教育センター主催研修を年間通じて行うとともに、教育フォーラムを開催し教職員をはじめ地域の方への周知を図ることができた。</p> <p>課題</p> <p>次期学習指導要領が求める児童・生徒の学びに向かう態度を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」とともに、「分かることが実感できる授業」についてもめざす必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

各校でのPDCAサイクルの充実	学	拡充	評価の在り方についての理解を深め、適切な評価に努めるとともに、評価結果を指導改善に生かす指導と評価の一体化の促進					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>授業充実支援として、指導主事及び市教育センター職員が各校を訪問し、直接教員への「かたのスタンダード」に基づく授業スタイルの共有を図り、指導と評価の一体化を進めることができた。</p> <p>課題</p> <p>次期学習指導要領を踏まえた、児童生徒の学習の達成状況や成長の様子を適切に評価するための研修を行う必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

教職員研修の充実	教	拡充	交野市教育センターとの連携により専門研修講座を充実させ、より実践的で専門性の高い研修の実施					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>教職員のキャリアステージに対応した実践的で専門的な市教育センター主催の研修を年間50回程度実施することができた。</p> <p>課題</p> <p>研修をより精選することにより、キャリアステージに応じた経験の浅い教員の育成やミドルリーダーを育成する研修をさらに充実させる必要がある。</p> <p>評価 A</p>								
小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進								

② 人材の育成

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
教職員研修の充実	教	拡充	教職員のキャリアステージに対応した実践的な研修の実施					
指導課								
<p>結果・成果</p> <p>市教委主催の研修を毎年度、50回程度以上を行うことができた。また他府県をはじめとする先進校視察も充実させ、教職員の資質向上だけでなく、学校全体、市全体の授業改善についての共通認識を図ることができた。</p> <p>課題</p> <p>教職員の構成などを考慮し、社会の変化やニーズに合ったより充実した研修を実施していく必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

校内研修体制の充実	学	拡充	校長による明確なビジョンに基づく研修の充実と、ミドルリーダーの育成、並びに経験の少ない教職員への指導技術の伝承	合同研修の充実
				相互授業参観の充実
				共通した指導方法の工夫・改善
指導課				
<p>結果・成果</p> <p>学校組織を活性化するために、OJTを意識した人権研修をはじめ、支援教育、道徳教育、プログラミング教育、またメンタルヘルスについての研修等を実施し、経験の浅い教職員の育成を計画的に行うことができた。</p> <p>課題</p> <p>経験の浅い教員をはじめとする人材育成について、さらに充実した支援を行いミドルリーダーとしての資質を身につけていくための研修等の必要がある。</p> <p>評価 A</p>				
交野市教育センターの充実と連携の推進				

(2) 学校運営体制の確立

学校運営体制の整備・充実

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
学校情報の発信	学	継続	学校の教育方針や教育活動に関する情報を家庭や地域に積極的に提供することによる、開かれた学校づくりの推進					

指導課

結果・成果

各小・中学校においては学校通信やHPで各学年の児童・生徒の様子等を定期的に更新し、積極的な情報発信を行うことができた。

課題

更新の頻度や情報量に違いがあり学校間の差があること。また携帯画面に対応などの見やすさ等への工夫をし、より多くの発信につなげていく必要がある。

評価 B

学園（中学校区）プランの活用		新規	児童・生徒や保護者、地域とめざす子ども像や取組を共有することで開かれた教育課程の実現を進める					
----------------	--	----	--	--	--	--	--	--

指導課

結果・成果

児童・生徒や保護者、地域などからの意見をもとに各中学校区が学園名を命名し、一体感をもって取組みながら学園（中学校区）プランを作成することができた。また、「めざす子ども像」を地域や保護者とも共有することができた。

課題

「めざす子ども像」を共通認識し、地域や保護者とより一層の連携を進め必要がある。

評価 A

学校教育評価の実施	学	拡充	学校評価システムを確立し、多様な観点から教育活動を評価することによる、学校運営体制の整備・充実		学校教育調査・外部評価の検証	検証を踏まえ改善		
-----------	---	----	---	--	----------------	----------	--	--

指導課

結果・成果

学園（中学校区）学校評議員会を実施し意見交流を行うことができた。その中で学校教育調査の結果を活用した検証を適切に行い次年度の学校運営や教育活動に活かすことができた。

課題

開かれた教育課程の実現のため、さらなる外部からの多様な意見を取り入れ検証する必要がある。その上で学校と地域、保護者が協働できる仕組みづくりについて検討していく必要がある。

評価 A

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
特色ある学校づくり		新規	学校パワーアップ新事業による特色ある学校づくりを推進					
指導課								
<p>結果・成果 学校経営の自主性・自律性と特色ある学校づくりを進めるため、校長の取組み計画に応じた予算配当を行い学校の課題解決や学校力の向上を支援することができた。</p> <p>課題 単年度での予算配当のため、予算配当なしに継続した取組みをするための工夫が必要である。</p> <p>評価 B</p>								

教職員のメンタルヘルスの充実	教	拡充	教職員の心身の健康を図るため、健康相談等の健康保持に必要な措置の継続的・計画的実施					
指導課、学校管理課								
<p>結果・成果 勤務時間管理簿、時間外・休日業務時間集計表により、教職員の勤務状況の把握を行い、産業医による面接指導を全校実施した。さらに一斉退庁日・学校閉庁日を設定した。その結果、時間外業務時間の減少がみられた。</p> <p>課題 産業医による面接指導の充実を行い、時間外・休日業務時間のさらなる減少を進める必要がある。限られた時間の中で最大限の効果を上げられるような働き方についての支援の方策について検討する必要がある。</p> <p>評価 A</p>								

ノークラブDAY(部活動休養日)の実施	教	拡充	生徒のバランスのとれた健全な成長と教職員の健康保持を図るための部活動休養日の設定					
指導課、学校管理課								
<p>結果・成果 「交野市部活動の在り方に関する方針」を示し、部活動を行わない日を原則週1日及び土・日曜日もしくは祝日に月2回以上設定した。生徒や教職員の心身の休息、教職員の時間外・休日業務時間の減少につながった。</p> <p>課題 平成30年度からの実施であるため、今後とも継続し、効果検証やさらなる運用の工夫が必要である。</p> <p>評価 B</p>								
家庭や地域と連携した教育活動の推進								

(3) 教育コミュニティの形成と家庭教育支援

教育コミュニティ

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
学校支援地域本部の充実	教・学・地	拡充	コーディネーター機能の強化や幅広い層の地域住民の参画など、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく仕組みづくりに取り組み、「地域学校協働本部」の設置をめざす					
社会教育課、青少年育成課、指導課								
<p>結果・成果</p> <p>地域全体で子どもたちの成長を支えていく仕組みとしての「地域学校協働本部」は設置され、花壇整備や登下校の見守りといった協働活動をはじめ、放課後等の学習活動、さらには体験活動など、地域学校協働活動が実施されてきた。</p> <p>課題</p> <p>地域学校協働本部は、コミュニティ・スクールを導入するうえでも重要な組織となる。今後の協働活動の充実を図りつつ、コミュニティ・スクールの導入も視野に入れたうえで、関係者等の「本部そのものの位置づけや性格」のさらなる理解を深めるとともに、学校と地域の効果的な橋渡しの役割を担うコーディネーターの育成や確保が必要となる。</p> <p>評価 B</p>								

放課後等の子どもたちの居場所づくり	教	継続	放課後子ども教室における、さまざまな体験活動、交流、学習機会の提供																							
青少年育成課																										
<p>結果・成果</p> <p>全小学校（10校）において、学校長期休業日を除く毎週水曜日に、安全ボランティアを配置し、フリースペース事業を実施し、放課後の児童の安全・安心な居場所を提供することができた。</p> <p>また、岩船小学校、長宝寺小学校の2校においては平日毎日、倉治小学校においては週2日の複数日開催をした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催日数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H 26</td> <td>延べ 286日</td> <td>延べ 10,678人</td> </tr> <tr> <td>H 27</td> <td>延べ 357日</td> <td>延べ 12,021人</td> </tr> <tr> <td>H 28</td> <td>延べ 510日</td> <td>延べ 15,458人</td> </tr> <tr> <td>H 29</td> <td>延べ 505日</td> <td>延べ 16,190人</td> </tr> <tr> <td>H 30</td> <td>延べ 482日</td> <td>延べ 13,349人</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題</p> <p>フリースペース事業においては、安全ボランティアの確保が難しいことから、全10校中7校については、週1回開催にとどまっている。</p> <p>評価 B</p>									年度	開催日数	参加者数	H 26	延べ 286日	延べ 10,678人	H 27	延べ 357日	延べ 12,021人	H 28	延べ 510日	延べ 15,458人	H 29	延べ 505日	延べ 16,190人	H 30	延べ 482日	延べ 13,349人
年度	開催日数	参加者数																								
H 26	延べ 286日	延べ 10,678人																								
H 27	延べ 357日	延べ 12,021人																								
H 28	延べ 510日	延べ 15,458人																								
H 29	延べ 505日	延べ 16,190人																								
H 30	延べ 482日	延べ 13,349人																								

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
交流会や事業報告会の開催	教・学 ・地	拡 充	地域のさまざまなボランティアと教職員、児童・生徒との交流会や取り組み報告会の開催					
社会教育課、指導課								
<p>結果・成果</p> <p>ボランティア同士の横の連携やボランティアと教職員との交流を図るために、市主催による研修交流会を年1回開催してきた。特に、研修会では学校支援をテーマに実施してきたところであり、今後のボランティア活動における参考とした。</p> <p>課題</p> <p>研修交流会の趣旨は周知したものの、参加者数が伸び悩んでおり、十分な効果を実感することが難しい。</p> <p>評価 B</p>								

コーディネーターの育成	教・学	拡 充	学校にコーディネーターを配置し地域コーディネーター等との連携の推進					
社会教育課、指導課								
<p>結果・成果</p> <p>毎年度、大阪府主催のコーディネーター研修会に本市コーディネーターが参加し、研さんを重ねていることから、一定、育成の成果は出ているものとする。</p> <p>課題</p> <p>コーディネーターのなり手が少なく、研修参加者も減少の傾向にある。特に、コーディネーターの中でも統括的な役割を担うコーディネーターのなり手がいない。</p> <p>評価 B</p>								

家庭教育の支援	教・地	拡 充	保護者・児童・生徒の親学習機会の提供					
社会教育課								
<p>結果・成果</p> <p>子育て中の保護者を対象に子育てに関する学習の機会や交流の場を提供、小中学校の児童・生徒に対しては、親になることをテーマにした学習機会を提供した。参加された保護者や児童・生徒からはアンケートからもそれぞれのテーマに沿った気づきがあったとの結果が出されている。</p> <p>家庭教育学級</p> <p>H26 全6回 延べ72人 H27 全6回 延べ91人 H28 全9回 延べ114人 H29 全6回 延べ89人 H30 全6回 延べ77人</p> <p>親学習</p> <p>H28 183人（第4中学校1年生） H29 175人（第4中学校1年生） H30 216人（第4中学校1年生と岩船小学校6年生）</p> <p>課題</p> <p>保護者を対象としたものについては、昨今、共働き家庭が増えていることもあり、参加者数が伸び悩んでいること、また児童・生徒に対する親になるための学習については、学校カリキュラム上、開催日の確保が難しく、ニーズがあることは把握しているが、全学校での開催まで至っていない。</p> <p>評価 A</p>								
学校・家庭・地域全体で子どもを育てる取り組みの推進								

<<施策の柱Ⅳ. 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校>>

(1) 健やかな体の育み

健康教育

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
健康教育と健康管理	教・学 ・地	拡 充	生涯にわたり、心身の健康を自己管理できる健康教育の実施					
学校管理課、学校給食センター								
<p>結果・成果（学校管理課） ブラッシング指導の実施により、正しい歯磨きの方法や歯科に関する正しい知識の啓発を行うことができた。</p> <p>課題 現在小学校3年生と5年生のみを対象に実施しているため、指導対象者に少し偏りがあると考えられる。</p> <p>評価 A</p> <p>結果・成果（学校給食センター） 郷土料理を取り入れ、和食の魅力を給食便り等により家庭生活に対して啓発活動を行い食育推進を図った。また、PTA試食会等で、和食の基本の出汁の取り方など調理の仕方を伝えて食生活に繋がる情報を発信することができた。 ブラッシング指導については、正しい歯磨きの方法や歯科に関する正しい知識の啓発を行った。</p> <p>課題 和食に欠かせないお箸の啓発</p> <p>評価 A</p>								

健康な体と体力の育成	教・学	拡 充	検診等による健康状態の把握及び環境衛生の推進と体育の授業における授業方法の工夫・改善、取組みの充実					
指導課、学校管理課								
<p>結果・成果（指導課） 各小・中学校が作成した体力づくり推進計画（アクションプラン）や全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果をもとに、児童生徒の体力の傾向を把握して、体力向上の取組みを推進することができた。</p> <p>課題 児童生徒の体力の傾向や課題を中学校区で共有して、共通の取組みを行うなど、連携したさらなる取組みが必要である。</p> <p>評価 A</p> <p>結果・成果（学校管理課） 内科、歯科、眼科、耳鼻科、心臓等の検診を実施し、児童・生徒の健康状態の把握を行うことができた。</p> <p>課題 眼科、耳鼻科の市内開業医が少ないため、学校眼科医・耳鼻科医1人が受け持つ負担が大きく何らかの対策が必要であると考えられる。</p> <p>評価 A</p>								

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
横断的、系統的な食育の推進	学	拡充	栄養教諭や学校栄養職員との連携による年間を通じての食に関する指導の推進					
指導課、学校給食センター								
<p>結果・成果（指導課）</p> <p>食に関する指導の全体計画をもとに栄養教諭と連携し、食に関する授業や児童集会、調理員との給食訪問、給食センターの見学を行った。また、給食時の箸の持参啓発に努め、給食だよりや集会などで栄養についての内容を取り入れ、心身の健康を自己管理できる健康教育を実施した。</p> <p>課題</p> <p>栄養教諭との連携をさらに深め、児童生徒に対して年間を通じて食に関する指導の推進を図る必要がある。</p> <p>評価 A</p> <p>結果・評価（学校給食センター）</p> <p>交流給食や給食センター見学を通じて、安全・安心で、美味しい給食を提供し、食べる側と作る側の距離を近づけることができた。また、栄養教諭を中心とした給食を教材とした食の指導を行った。</p> <p>課題</p> <p>小学校高学年、中学生に対する年間を通じての食に関する指導の推進。</p> <p>評価 A</p>								
小・中学校9年間を見通した実践的研究の推進								

(2) 子どもの安全確保と危機管理体制の充実

安全教育と危機管理

項目	主体	内容		H26	H27	H28	H29	H30
生活安全・交通安全教育の推進	学	拡充	子どもや社会の実態に合った安全教育の推進	→		安全指導・研修の充実		
指導課、学校管理課								
<p>結果・成果 警察や市の危機管理室との連携により各種安全教育の実施・推進を行った。</p> <p>課題 登下校の防犯についての児童の危機意識が低い。</p> <p>評価 A</p>								

教職員研修等の実施	教・学	拡充	危機管理の意識向上につながる研修の実施	→		防災教育の充実	合同研修会の実施	
指導課、教育センター、学校管理課								
<p>結果・成果 学校における危機管理や、体育実技等における安全管理等の教職員研修を実施し、危機管理の意識向上や対応の強化につながる支援を行った。</p> <p>課題 こどもの安全を確保するために熱中症や心肺停止等にもなうAED使用など緊急時における初期の対応・対処についての研修等を実施し適切な対応がとれる学校体制の構築が必要である。</p> <p>評価 A</p>								
地域と連携した危機管理体制づくりの推進								